

令和元年度（平成30年度事業）

教育委員会の事務事業点検評価報告書

令和元年12月

出水市教育委員会

1 はじめに

出水市教育委員会では、平成30年3月に策定された第二次出水市総合計画の基本方針である「郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり」に沿って健康で明るく、主体性・創造性・国際性豊かな市民の育成を目指して、生涯学習の観点から教育・文化・スポーツの振興を図っています。

本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、平成30年度に実施した重点施策のうち5つの事業について点検及び自己評価を実施し、教育事務点検評価会議の委員による外部評価、及び教育委員による最終評価を経て報告書としてまとめましたので、議会へ提出します。

2 教育委員会の事務の点検及び評価

(1) 対象とした施策 [] 内は担当課

1 奨学金貸付事業〔教育総務課〕	……………	P	3
2 命の教育事業〔学校教育課〕	……………	P	6
3 出水ふるさと学寮事業〔生涯学習課〕	……………	P	9
4 出水麓歴史館一般管理事業〔文化財課〕	……………	P	12
5 給食の調理及び輸送〔給食センター〕	……………	P	15

(2) 評価の方法

ア 担当課自己評価（一次評価）

事業計画・手段、達成目標及び実績等に基づき、担当課として、「妥当性」、「有効性」、「効率性」の3つの観点から自己評価を行い、今後の方向性・改善点案等を明示しました。

イ 出水市教育事務点検評価会議委員による外部評価

出水市教育事務点検評価会議を開催し、担当課のヒアリングから得られた情報に基づき、出水市教育事務点検評価会議委員5人から外部評価をいただき、その意見を集約し、掲載しました。

ウ 教育委員会総合評価

担当課の自己評価と出水市教育事務点検評価会議委員による外部評価に基づき、教育委員会総合評価を行いました。

【資料 1】 出水市教育事務点検評価会議委員

氏 名	所属及び職名等
宮 崎 太 郎	市 P T A 連絡協議会代表（同理事）
肱 岡 重 幸	市文化協会代表（同会長）
税 所 司	市体育協会代表（同会長）
杉 園 信二郎	出水地区高等学校・養護学校長会代表 （出水商業高等学校長）
池 田 俊 彦	市校長協会代表（西出水小学校長）

【資料 2】 分析・検証結果を元にした方針のランク

	【総合評価】	【今後の方向性】
A	業務の内容は適切である	成果向上・費用拡大＝改善案（予算を増大してでも成果を上げる）
B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要	成果向上・費用維持＝生産性向上
C	課題が多くあり業務の大幅な見直しが必要	成果向上・費用縮小＝改善案（他の主力の力を引き出す）
D	統合、休・廃止を含む抜本的な見直しが必要	成果・費用とも維持＝現状維持
E		成果維持・費用縮小＝効率性の向上
F		事業・費用とも縮小＝段階的撤回
G		終了廃止＝終了・廃止・民営化

出水市実施計画・事務事業評価シート1

(評価対象： 2018 年度)

事務事業名	奨学金貸付事業			担当部	教育部	担当課	教育総務課			
				事業番号	34004	新規・継続	継続	会計	一般	
総合計画上の位置づけ	基本方針	4	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり				事業期間	開始	2006	年度
	施策	3	学校教育の充実					終了		年度
	細施策	6	教育費支援制度の充実				経過年数	13	年	
事業の性質	区分	任意の自治事務		関与性	5	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網（セーフティ・ネット）を整備する事務事業				
関連計画等	重点推進施策	<input checked="" type="checkbox"/>	総合戦略	<input type="checkbox"/>	教育行政	<input checked="" type="checkbox"/>	その他（ ）			
事業が必要な理由・根拠（市民ニーズ、法令等）		優秀であるにもかかわらず、経済的理由により修学困難な者に対し、学資を貸与し、広く社会で活躍できる人材の育成に資するとともに、本市の未来を担う若人を支援し、定住促進を図るため								
対象（だれを）		大学、高等専門学校、大学院、短期大学、専修学校の専門課程、専門職大学、専門職短期大学に在学する者								
意図（どうしたいか）※期待する効果		広く社会で活躍できる人材の育成と定住促進								
手段（どのように）		奨学金を貸与し、大学等卒業後、本市に居住すれば免除又は支援補助が受けられる								

1 行動計画（実績と計画）

<p>■奨学金貸付人数及び貸与総額</p> <p>平成30年度：45人（19,752千円）内訳：新規15人（申込23人）、継続30人</p> <p>平成29年度：48人（18,174千円）内訳：新規21人、継続27人</p> <p>平成28年度：39人（14,184千円）内訳：新規7人、継続32人</p> <p>平成27年度：44人（17,088千円）内訳：新規18人、継続26人</p> <p>平成26年度：36人（13,920千円）内訳：新規15人、継続21人</p> <p>■基金の実績（基金総額：2億1,710万7,321円）</p> <p>平成30年度：現金102,819,021円、貸付金114,288,300円（運用率52.64%）</p> <p>平成29年度：現金111,215,621円、貸付金105,891,700円（運用率48.78%）</p> <p>平成28年度：現金114,078,721円、貸付金103,028,600円（運用率47.46%）</p> <p>平成27年度：現金111,000,621円、貸付金106,106,700円（運用率48.87%）</p> <p>平成26年度：現金112,578,621円、貸付金104,528,700円（運用率48.15%）</p>	<p>■入学一時金貸付</p> <p>8人：3,800千円</p>
--	-----------------------------------

2 コスト（単位：千円、人）

※2018年度の人件費は10月～3月の半年分です。

区分	2016決算	2017決算	2018決算	2019予算	2020見込	2021見込	2022見込	
事業費	直接事業費 A		23,580	31,280	32,280	33,280	34,280	
	人件費 B		1,747	1,747	1,747	1,747	1,747	
	投入職員数(正規)		0.216	0.216	0.216	0.216	0.216	
	投入職員数(臨時)							
	総事業費 A+B			25,327	33,027	34,027	35,027	36,027
財源	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他			23,552	23,748	24,748	25,748	26,748
	一般財源			1,775	9,279	9,279	9,279	9,279

3 指標達成状況

指標名		単位	2016	2017	2018	2019	達成率	最終目標	最終年度
①	活動	採用人数	目標	25	25	15	100.00%	15人	
			実績	7	21	15			
②			目標						
			実績						
③			目標						
			実績						
④			目標						
			実績						

4 分析・検証

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定		
妥当性	継続実施の必要性 <small>(事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか)</small>	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	30年度、31年度の奨学生を対象に奨学金の拡充をしてきたので、今後この事業を継続し、検証していく必要がある。	2	
	市関与の必要性 <small>(市が主体で取り組むべき事業か)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			
	役割分担の適切性 <small>(「個人」や「自治会」レベルで担える部分はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			今後、基金が枯渇する問題が発生したときは企業からの出資金等で運営することも考えられるが、現在、市の基金で奨学金の運営ができています。
	目標の達成度 <small>(評価指標や意図をどの程度達成しているか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った			奨学金貸与者を15人と設定しており、15人採用できている。
	手段の有効性 <small>(現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			市の奨学金について知らなかったという方が何人かいたので、周知の仕方を考える必要がある。それに応じて、応募者が多ければ今後の対応を考える。
	他団体との連携 <small>(国・他自治体、企業、団体等と連携、活用により成果向上が図れないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			出水市内の各高校へ出向き、奨学金について説明を実施した。進路担当の先生に対象となる生徒への周知を依頼している。
効率性	業務の効率化 <small>(業務手順、内容に見直しの余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	滞りなく業務が遂行されている。	3	
	投入コストの適切性 <small>(投入するコストは適正化、削減の余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			貸与額、返還額のバランスがとれている。
	財源の確保 <small>(受益者負担は適正化、国、県等の補助等はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			基金のシミュレーションをして、貸付額が不足することのないようにチェックをしている。しばらくの間は不足することはない。

5 方針（分析・検証結果を元に対応方針を検討する）

評価者 教育総務課長 園島祐一

		妥当性				業務改善についての方向性				
		0点	1点	2点	3点	奨学金の周知方法及び募集時期等について、改善の余地がある。				
有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C					
	いずれか1点	C	C	C	C					
	合計4点	C	C	B	B					
	合計5点	C	B	B	A					
	合計6点	C	B	A	A					
B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要										
前年評価		前々年評価								
総合評価と今後の方向性	成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性（関与人件費含）		
						〔成果向上〕 奨学金貸付事業を周知徹底し、利用促進を含め、事業の充実を図りたい。		〔費用維持〕 基金の状況等踏まえ、現在の定員15人が妥当と考える。		
		皆減	縮小	維持	拡大					
		向上		C	B	A				
		維持		E	D					
	縮小		F							
	休廃止	G								
B 成果向上・費用維持		＝ 生産性向上				前年度 施策評価方針				

出水市教育委員会事務事業 外部評価・二次評価シート

事業名	奨学金貸付事業	事業コード	34004
		番号	

位置づけの	出水市の教育	施策名（重点）	教育費支援制度の充実
		施策名（努力点）	大学等進学者への経済的支援
	総合計画	基本方針	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり
		施策	学校教育の充実
		細施策	教育費支援制度の充実
一次評価	総合評価	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要
	今後の方向性	B	成果向上・費用維持

【外部評価】出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言

○居住期間に応じて減額免除されるということなので、この定住促進という観点から、採用人数以外にもう一つ指標を加えてみてはどうか。

○高校側から、学校の方での周知が足りなかったのではと反省するところがあるので、今後学校側でこういうふうにしてもらいたいなどの要望があったら是非言っていただきたい。

【二次評価】教育委員会委員による評価（方向性）・一次評価に対する意見

		投入コスト				評価の理由・附帯意見等
		皆減	縮小	維持	拡大	
成果	向上		C	B	A	○制度の趣旨に沿って、事業を進めていただきたい。
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
		B 成果向上・費用維持				

出水市実施計画・事務事業評価シート2

(評価対象： 2018 年度)

事務事業名	命の教育事業			担当部	教育部	担当課	学校教育課			
				事業番号	35085	新規・継続	継続	会計	一般	
総合計画上の位置づけ	基本方針	4	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり				事業期間	開始	2013	年度
	施策	3	学校教育の充実					終了		年度
	細施策	2	豊かさの教育				経過年数	6	年	
事業の性質	区分	任意の自治事務		関与性	4	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために、必要な規制、監督指導、情報提供、相談などを目的とした事務事業				
関連計画等	重点推進施策	<input type="checkbox"/>	総合戦略	<input type="checkbox"/>	教育行政	<input checked="" type="checkbox"/>	その他 ()			
事業が必要な理由・根拠 (市民ニーズ、法令等)	いじめや問題行動等及び不登校などの各種課題の増加、また、児童生徒の自殺や虐待などの命に関する事件が全国的に課題となっていることから、「命」や「生き方」、「人権」に関する意識の醸成、命を大切にする教育の充実が求められている。									
対象 (だれを)	児童生徒									
意図 (どうしたいか) ※期待する効果	自他のかげがえのない命 (存在) を大切にし、力強く生き抜こうとする態度を育成する。									
手段 (どのように)	「命」に関する講演会や研修会等を発達の段階に応じて、計画的に開催するとともに、教育活動全体を通じて意図的に指導する。									

1 行動計画 (実績と計画)

<p><実績></p> <p>(1) いずみ宝子「命」のサミットの開催 (市教委主催)</p> <p><参加対象> 中学校2年生全員、小学校6年生代表 (各学級5人程度)、教職員及び保護者、家庭教育推進員、青少協、社会教育委員、女団連等の代表 等</p> <p>【H28年度】 参加人数：1,000人程度 場所：文化会館</p> <p>【H29年度】 参加人数：1,000人程度 場所：文化会館</p> <p>【H30年度】 参加人数：1,000人程度 場所：文化会館</p> <p>(2) 「命の教育」に関する講演会 (小学校13校、中学校6校、義務教育学校1校で毎年開催)</p> <p><参加対象> 各学校の児童生徒及び教職員、保護者等</p> <p><計画></p> <p>【R元】</p> <p>・いずみ宝子「命」のサミット及び「命の教育」に関する講演会は継続</p>	
---	--

2 コスト (単位：千円、人)

区分	2016決算	2017決算	2018決算	2019予算	2020見込	2021見込	2022見込
事業費	直接事業費 A		1,291	1,930	1,930	1,930	1,930
	人件費 B		411	411	411	411	411
	投入職員数(正規)		0.100	0.100	0.100	0.100	0.100
	投入職員数(臨時)		0.008	0.008	0.008	0.008	0.008
	総事業費 A+B		1,702	2,341	2,341	2,341	2,341
財源	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他						
一般財源			1,702	2,341	2,341	2,341	2,341

3 指標達成状況

指標名	単位	2016	2017	2018	2019	達成率	最終目標	最終年度
① 活動 各学校における「命」に関する講演会等の実施	%	目標	100	100	100	100.00%	100%	
		実績	100	100	100			
② 成果 全国学力・学習状況調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」項目	%	目標	100	100	100	97.30%	100%	
		実績	96.1	95.6	97.3			
③ 成果 全国学力・学習状況調査「自分には、よいところがあると思いますか」項目	%	目標	80	80	80	98.50%	80%	
		実績	65.7	67.5	78.8			
④		目標						
		実績						

4 分析・検証

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	継続実施の必要性 <small>(事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか)</small>	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	内容や時間等については、工夫する。	2
	市関与の必要性 <small>(市が主体で取り組むべき事業か)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	役割分担の適切性 <small>(「個人」や「自治会」レベルで担える部分はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	目標の達成度 <small>(評価指標や意図をどの程度達成しているか)</small>	<input type="checkbox"/> 目標を達成している <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った	最終目標には達していないが、年々目標値に近づいてきている。	2
	手段の有効性 <small>(現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	他団体との連携 <small>(国・他自治体、企業、団体等と連携、活用により成果向上が図れないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 <small>(業務手順、内容に見直しの余地はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	他の事業との統合等はある。	2
	投入コストの適切性 <small>(投入するコストは適正化、削減の余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源の確保 <small>(受益者負担は適正化、国、県等の補助等はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

5 方針（分析・検証結果を元に対応方針を検討する）

評価者 学校教育課長 田中真一郎

		妥当性				業務改善についての方向性			
		0点	1点	2点	3点	出水市命の教育の事業は、それぞれ成果を上げており、自己肯定感の数値も上昇してきている。本市では、過去悲しい事故も発生しており、引き続き命の教育を充実する必要がある。			
有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C				
	いずれか1点	C	C	C	C				
	合計4点	C	C	B	B				
	合計5点	C	B	B	A				
	合計6点	C	B	A	A				
B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要									
前年評価		前々年評価							
		投入コスト				成果の方向性		コストの方向性（関与人件費含）	
		皆減	縮小	維持	拡大	一定の成果を上げているが、事業内容が固定化してきている。内容を充実させ、さらに推進する必要がある。		現状維持	
成果	向上		C	B	A				
	維持		E	D					
	縮小		F						
	休廃止	G							
D 成果・費用とも維持 = 現状維持								前年度 施策評価方針	

出水市教育委員会事務事業 外部評価・二次評価シート

事業名	命の教育事業	事業コード	35085
		番号	

位 計 置 画 づ 上 げ の	出水市の 教育	施策名（重点）	生徒指導の充実
		施策名（努力点）	いじめ・不登校・問題行動等への対応
	総合計画	基本方針	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり
		施策	学校教育の充実
		細施策	豊かさの教育
一 次 評 価	総合評価	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要
	今後の方向性	D	成果・費用とも維持

【外部評価】出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言

○大変すばらしい会なので、児童・生徒・教職員・保護者などたくさん参加できるような工夫ができればと思う。
 ○極めて先進的な取り組みだと思うので、一次評価Bのとおり、工夫・改善を図りながら充実させていただくという
 ことで適切な評価だと考える。
 ○自己肯定感が高いと学力もそれと関連して上がっていく。このサミットがあって、いじめをなくすとかいうこと
 にも繋がっていくと思われる。収容人数の関係もあると思うが、高校側も引き続き参加をお願いしたい。
 ○今の世の中は、人を傷つけることがゲーム感覚で平然と行われている時代である。命というものは学校だけがど
 うこうではなく、最終的な教育というものは親にもうちょっと頑張ってもらわないと解決の目途がつかないと思
 う。

【二次評価】教育委員会委員による評価（方向性）・一次評価に対する意見

		投入コスト				評価の理由・附帯意見等
		皆減	縮小	維持	拡大	
成 果	向上		C	B	A	○「代表生徒の負担が大きい」、「目的は、児童・生徒全員に命の大切さ について考えてもらうこと」、この二つのことを考え合わせると、各学 校で事前に、例えばクラス別にワークショップ制でいろいろディスカッ ション、グループ発表をさせ、学級の結論を学校全体でまとめてサミッ トに出る代表者に託すということをする、この事業の目的が達成でき るのではないか。そのような方向で検討できればと思う。 ○年に数回、各学校で命に関する専門家に話をしていただき、日常的に命 の大切さについて考えることができるようにすることが重要である。
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
		D 成果・費用とも維持				

出水市実施計画・事務事業評価シート3

(評価対象： 2018 年度)

事務事業名		出水ふるさと学寮事業			担当部	教育部	担当課	生涯学習課		
					事業番号	36013	新規・継続	継続	会計	一般
総合計画上の位置づけ	基本方針	4	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり				事業期間	開始	2006	年度
	施策	2	社会教育の充実					終了		年度
	細施策	2	青少年教育の充実				経過年数	13	年	
事業の性質	区分	任意の自治事務		関与性	2	受益の範囲が不特定多数の市民におよび、サービス対価の徴収ができない事務事業				
関連計画等	重点推進施策 <input type="checkbox"/> 総合戦略 <input type="checkbox"/> 教育行政 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()									
事業が必要な理由・根拠 (市民ニーズ、法令等)		本事業各回終了後のアンケートにおいては、参加者からは「また参加したい」「手伝いをしたい」、保護者からは「また参加させたい」「自立した生活ができる」などの意見が寄せられており、ニーズが高いものだと考える。								
対象 (だれを)		市内の小学3年生 (義務教育学校3年生) から中学3年生 (義務教育学校9年生) までの児童・生徒								
意図 (どうしたいか) ※期待する効果		○自主性・協調性を身に付ける。 ○感謝の気持ちや思いやりの心を育む。 ○家族や友達、地域との関りを見つめ、これからの自分を考える。 ○地域への愛着を深める。								
手段 (どのように)		異年齢での集団生活体験として、日常生活 (掃除・洗濯・料理・整理整頓等) を参加者が主体的に行う。								

1 行動計画 (実績と計画)

<実績>				
	実施回数	応募者数	参加者数	
2016年度	3回	137人	92人	※各回定員32人
2017年度	3回	159人	95人	※各回定員32人
2018年度	3回	144人	92人	※各回定員32人
<計画>				
	実施回数	定員		
2019年度	3回	各回32人		
※実施回数3回の内訳は、いずれも長期日程 (7泊8日または6泊7日) 2回、短期日程 (3泊4日) 1回。				

2 コスト (単位: 千円、人)

区分	2016決算	2017決算	2018決算	2019予算	2020見込	2021見込	2022見込
事業費	直接事業費 A		564	1,302	1,302	1,302	1,302
	人件費 B		5,661	5,661	5,661	5,661	5,661
	投入職員数(正規)		0.700	0.700	0.700	0.700	0.700
	投入職員数(臨時)						
	総事業費 A+B			6,225	6,963	6,963	6,963
財源	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他			406	426		
	一般財源			5,819	6,537	6,963	6,963

3 指標達成状況

指標名	単位	2016	2017	2018	2019	達成率	最終目標	最終年度
① 成果 家庭生活に係るアンケート (20項目) に係る満足度	%	目標	70	70	70	97.14%	80%	
		実績	66	60	68			
②		目標						
		実績						
③		目標						
		実績						
④		目標						
		実績						

4 分析・検証

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	継続実施の必要性 <small>(事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	毎回の定員を超える申込みによりニーズの高さが表れているため、事業を継続していくべきである。	2
	市関与の必要性 <small>(市が主体で取り組むべき事業か)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	性格や体調、生活面での課題など、児童・生徒一人ひとりに対応するために、学校や家庭との連携を密にする必要があることから、市教委が主体的に取り組むことが望ましい。	
	役割分担の適切性 <small>(「個人」や「自治会」レベルで担える部分はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	事業の一部を外部に委託したり、ボランティアを要請するなど、職員の負担軽減を図る必要がある。	
有効性	目標の達成度 <small>(評価指標や意図をどの程度達成しているか)</small>	<input type="checkbox"/> 目標を達成している <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った	事業終了後1か月後の保護者アンケートにおいて、生活面での20項目にて「いつもできる」「だいたいできる」の合計割合が目標を下回っている。	2
	手段の有効性 <small>(現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	細かな部分で改善について検討する必要がある。	
	他団体との連携 <small>(国・他自治体、企業、団体等と連携、活用により成果向上が図れないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	社会教育団体等に委託できる活動がないか検討する必要がある。	
効率性	業務の効率化 <small>(業務手順、内容に見直しの余地はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	職員の負担軽減を図るために、ボランティアや外部委託を検討する。また、前回の反省点や参加者アンケートに基づいて内容や手順等の改正を行う。	2
	投入コストの適切性 <small>(投入するコストは適正化、削減の余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	支出のほとんどが生活に必要なものであるため、人件費以外においては削減の余地はない。	
	財源の確保 <small>(受益者負担は適正化、国、県等の補助等はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	受益者負担として参加費を徴収しており、金額も適正であると考えられる。	

5 方針（分析・検証結果を元に対応方針を検証する）

評価者 生涯学習課長 東 秀文

		妥当性				業務改善についての方向性	
		0点	1点	2点	3点		
有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	毎回定員を超える申込みがあることや終了後のアンケートにおいて再度の参加を希望する意見があることにニーズの高さが表れており、事業は継続すべきものと考えられる。 しかし、食事の支度や生活指導、宿直、送迎等職員の負担が大きいため、ボランティアや事業の一部を外部委託する等負担軽減を図っていかねばならない。 社会教育委員の会においても業務改善の視点から指摘があり、今後、回数や日数を減らすべきかどうか検討している。 また、事業で学んだことを家庭でも継続的に行うことができるようなプログラム・指導方法の検討が必要である。	
	いずれか1点	C	C	C	C		
	合計4点	C	C	B	B		
	合計5点	C	B	B	A		
	合計6点	C	B	A	A		
B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要							
前年評価		前々年評価					
総合評価と今後の方向性	成果	投入コスト				参加した児童生徒及び保護者のアンケート結果からは、一定の効果があることが分かる。毎回、募集定員を上回る応募があることから、継続して事業を実施する必要がある。	
		皆減	縮小	維持	拡大		事業を行うためには、マンパワーが必要であることから、送迎等を含め委託できるところは委託して、職員の負担を軽減して事業を進めていく。
	向上		C	B	A		
	維持		E	D			
	縮小		F				
休廃止	G						
D 成果・費用とも維持 = 現状維持						前年度 施策評価方針	

出水市教育委員会事務事業 外部評価・二次評価シート

事業名	出水ふるさと学寮事業	事業コード	36013
		番号	

位 計 置 画 づ 上 げ の	出水市の 教育	施策名（重点）	青少年教育の充実
		施策名（努力点）	「郷土に学び・育む青少年を育てる運動」の充実
	総合計画	基本方針	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり
		施策	社会教育の充実
		細施策	青少年教育の充実
一 次 評 価	総合評価	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要
	今後の方向性	D	成果・費用とも維持

【外部評価】出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言

○家庭でこの事業を生かしてもらえるように、保護者と子供たち双方のアンケートをとることで家族の会話のきっかけとしてほしい。

○事業費が単純に一人当たり約6万円かかり、定員オーバーで参加できない子供もいる中で、最終的な指標を含めて結果の回収がアンケートだけというのはどうか。もうちょっと事業としての手応えを得られるような、評価をもっと厳密にしていける必要があるのではないか。

○事業として大変すばらしい成果をあげていると思われるので、今後とも更に向上したふるさと学寮になればと思う。

【二次評価】教育委員会委員による評価（方向性）・一次評価に対する意見

		投入コスト				評価の理由・附帯意見等
		皆減	縮小	維持	拡大	
成 果	向上		C	B	A	○この事業の意義は、子供を家庭から離して生活させ、親にどれだけ助けられているかということに気付く機会になるということである。できるだけ多くの子供達に経験させるという方向で頑張っていたきたい。 ○職員（特に女性）の負担軽減のため、青年団・女性団体・高校生等社会教育団体に入っただき、プログラムの中で具体的に役割分担を設定してはどうか、検討していただければと思う。
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
		D 成果・費用とも維持				

出水市実施計画・事務事業評価シート4

(評価対象： 2018 年度)

事務事業名		出水麓歴史館一般管理			担当部	教育部	担当課	文化財課		
					事業番号	42001	新規・継続	継続	会計	一般
総合計画上の位置づけ	基本方針	4	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり				事業期間	開始	2017	年度
	施策	4	文化の振興					終了		年度
	細施策	1	文化財の保存・活用の推進				経過年数	2	年	
事業の性質	区分	任意の自治事務		関与性	8	市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事務事業				
関連計画等	重点推進施策 <input type="checkbox"/> 総合戦略 <input type="checkbox"/> 教育行政 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()									
事業が必要な理由・根拠 (市民ニーズ、法令等)		出水市出水麓歴史館の設置及び管理に関する条例								
対象 (だれを)		市民								
意図 (どうしたいか) ※期待する効果		市民の教養、学術及び文化の発展への寄与								
手段 (どのように)		出水麓武家屋敷群に関連する資料を収集し、保管し、調査研究し、及び展示する。								

1 行動計画 (実績と計画)

<p>平成29年度</p> <p>年間入館者目標 20,000人</p> <p>入館者実績数 21,101人 達成率116.3%</p> <p>「出水麓遺跡展」 延べ1,334人</p> <p>「出水に残る刀展」 延べ2,261人</p> <p>「出水の麓」展 延べ5,942人</p> <p>「なんこ道場、なんこ王決定戦」</p> <p>道場308人、決定戦50人参加</p> <p>令和元年度</p> <p>「種子島楽展」 4/18~6/18</p> <p>「出水城展」 11/21~2/18</p> <p>「出水に残る刀展」 12/19~2/18</p> <p>「なんこ王決定戦」 2019/08/24</p>	<p>平成30年度</p> <p>年間入館者目標 20,000人</p> <p>入館者実績数 20,140人 達成率100.7%</p> <p>「日置流腰矢指矢展」 延べ1,947人</p> <p>「威徳天神三十六歌仙展」 延べ2,996人</p> <p>「出水に残る刀展」 延べ1,228人</p> <p>「なんこ道場、なんこ王決定戦」</p> <p>道場215人、決定戦26人参加</p>
--	--

2 コスト (単位：千円、人)

区分		2016決算	2017決算	2018決算	2019予算	2020見込	2021見込	2022見込
事業費	直接事業費 A			11,818	10,860	10,860	10,860	10,860
	人件費 B			2,957	3,154	3,154	3,154	3,154
	投入職員数(正規)			0.360	0.390	0.390	0.390	0.390
	投入職員数(臨時)			0.030				
	総事業費 A+B			14,775	14,014	14,014	14,014	14,014
財源	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源			14,775	14,014	14,014	14,014	14,014

3 指標達成状況

指標名		単位	2016	2017	2018	2019	達成率	最終目標	最終年度
①	活動 企画展の開催	回	目標	4	4	4	100.00%	4回	
			実績	4	4				
②			目標						
			実績						
③			目標						
			実績						
④			目標						
			実績						

4 分析・検証

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	継続実施の必要性 <small>(事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	出水麓武家屋敷群に関連する資料を収集し、保管し、調査研究し展示することは、市民の教養、学術及び文化の発展に寄与するものとして必要である。	3
	市関与の必要性 <small>(市が主体で取組むべき事業か)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	国の伝統的建造物群保存地区「出水麓」の保存活用に寄与する館としての博物館類似施設であり市関与の必要性がある。	
	役割分担の適切性 <small>(「個人」や「自治会」レベルで担える部分はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	特にないと考える。	
有効性	目標の達成度 <small>(評価指標や意図をどの程度達成しているか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った	目標は達成しているが、企画展の内容について更なる充実を図る必要があると考える。	2
	手段の有効性 <small>(現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	調査研究の成果を企画展として市民に還元するためには、専門的知識の充実を図る必要がある。	
	他団体との連携 <small>(国・他自治体、企業、団体等と連携、活用により成果向上が図れないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	公開武家屋敷を管理している出水麓街なみ保存会や歴史民俗資料館との更なる連携を図り、調査研究資料及び展示資料の掘り起こしを行うとともに出水小学校の「出水麓歴史子どもガイド」とも連携し出水麓の情報をこれまで以上に発信していく必要がある。	
効率性	業務の効率化 <small>(業務手順、内容に見直しの余地はないか)</small>	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	麓歴史館に勤務する職員相互の連携・情報共有を密にするとともに業務の執行体制を明確にしお互いの担当業務を補完しあえるようにする必要がある。	2
	投入コストの適切性 <small>(投入するコストは適正化、削減の余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	適正である。	
	財源の確保 <small>(受益者負担は適正化、国、県等の補助等はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	博物館類似施設として、市内の他の施設よりも多くの入館があり、適切であると考ええる。	

5 方針（分析・検証結果を元に対応方針を検討する）

評価者 文化財課長 武和 真市

		妥当性				業務改善についての方向性			
		0点	1点	2点	3点				
有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	麓歴史館に勤務する職員相互の連携・情報共有を密にするとともに業務の執行体制を明確にすることで業務の効率化を図る。また、出水麓街なみ保存会や歴史民俗資料館、出水小学校「出水麓歴史子どもガイド」との連携をさらに高めることで調査研究の充実やこれまで以上の情報発信を行っていく。			
	いずれか1点	C	C	C	C				
	合計4点	C	C	B	B				
	合計5点	C	B	B	A				
	合計6点	C	B	A	A				
B		課題が少しあり業務の一部見直しが必要							
前年評価		前々年評価							
総合評価と今後の方向性	成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性（関与人員費含）	
		皆減 縮小 維持 拡大				職員相互の連携・情報共有を密にすることや他団体との連携を高めることで、より充実した調査研究の成果が反映された企画展の開催や情報発信などにより市民の教養・学術・文化の発展への寄与を向上させる。		なし	
		向上		C	B	A			
		維持		E	D				
	縮小		F						
	休廃止	G							
A		成果向上・費用拡大				＝改善案（予算を増大してでも成果を上げる）		前年度 施策評価方針	

出水市教育委員会事務事業 外部評価・二次評価シート

事業名	出水麓歴史館一般管理	事業コード	42001
		番号	

位置づけの	出水市の教育	施策名（重点）	博物館等の機能充実と活用
		施策名（努力点）	出水麓歴史館の機能充実と活用
	総合計画	基本方針	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり
		施策	文化の振興
	細施策	文化財の保存・活用の推進	
一次評価	総合評価	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要
	今後の方向性	A	成果向上・費用拡大

【外部評価】出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言

○事業の目的の中の「国内外へ情報発信する」という点で、最終的にそれがまた出水に戻ってきて地域の方々がより郷土を愛するということに結びついてくると思うが、それを数値化してみて、今後最終的にどれだけできたのかというところが確認できればと感じた。また、行動計画の目標を指数に持ってきてはどうかと思う。

○一回中を見た際、コンパクトに出水麓の歴史がわかるようになっており勉強になった。外国語の案内はどうだったかと気になった。

【二次評価】教育委員会委員による評価（方向性）・一次評価に対する意見

		投入コスト				評価の理由・附帯意見等
		皆減	縮小	維持	拡大	
成果	向上		C	B	A	○集客力のある、人を惹きつける力のある場所なので、行けば出水市全体の様子が分かる、出水市内に点在する名所・観光施設等を線で結べるようなものがないか、ぜひ考えていただければと思う。 ○麓のことを知ってもらうために、歴史書・小冊子等が、求めている人の目に付くような状況にして販売してはどうか。また、在庫についても管理して再販等対応していただきたい。
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
		A 成果向上・費用拡大				

出水市実施計画・事務事業評価シート5

(評価対象: 2018 年度)

事務事業名		給食の調理及び輸送		担当部	教育部	担当課	給食センター	
				事業番号	41003	新規・継続	継続	会計 一般
総合計画上の位置づけ	基本方針	4	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり			事業期間	開始	2013 年度
	施策	3	学校教育の充実				終了	年度
	細施策	3	たくましさの教育				経過年数	6 年
事業の性質	区分	義務的自治事務		関与性	1			
関連計画等	重点推進施策 <input type="checkbox"/> 総合戦略 <input type="checkbox"/> 教育行政 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()							
事業が必要な理由・根拠 (市民ニーズ、法令等)		学校給食の普及充実を図る。(学校給食法第1条)						
対象 (だれを)		義務教育諸学校の児童又は生徒						
意図 (どうしたいか) ※期待する効果		学校給食実施基準、学校給食衛生基準に照らして適切な学校給食の実施に努める。						
手段 (どのように)		学校給食実施基準、学校給食衛生基準に基づいた給食調理を実施し、安全に輸送することにより安心安全な給食の提供に努める。						

1 行動計画 (実績と計画)

出水市学校給食センターの概要

【対象校】 小学校5校 (高尾野、下水流、江内、野田、蕨島) 【給食総数】 約1,750食
 中学校3校 (高尾野、江内、野田) 【職員構成】 所長、次長、栄養教諭2人
 義務教育学校1校 (鶴荘学園) 調理主事4人、臨時給食調理員14人
 幼稚園1園 (野田) 計9校1園 臨時給食配送員2人

<実績> (平成30年度)
 安心安全な給食を提供した。(年間稼働日数 199日、安心安全な給食を提供した日数 199日)
 安心安全な給食の提供のための研修会及び打合せ会等の実施した。
 センター衛生研修 (8月実施) 交通安全教室 (8月実施) 職員打合せ会 (毎月実施)
 職員朝礼 (毎月実施) 献立検討会 (毎月実施) 献立打合せ (給食実施前毎日)

<計画> (令和元年度)
 安心安全な給食を提供する。(年間稼働日数 196日、安心安全な給食の提供日数 196日)
 安心安全な給食の提供のための取り組みは、平成30年度と同様とする。

2 コスト (単位:千円、人)

区分	2016決算	2017決算	2018決算	2019予算	2020見込	2021見込	2022見込
事業費	直接事業費 A		24,559	24,814	24,814	24,814	24,814
	人件費 B		68,621	71,724	66,431	66,431	66,431
	投入職員数(正規)		6	6	5	5	5
	投入職員数(臨時)		16	16	17	17	17
	総事業費 A+B		93,180	96,538	91,245	91,245	91,245
財源	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源			93,180	96,538	91,245	91,245

3 指標達成状況

指標名	単位	2016	2017	2018	2019	達成率	最終目標	最終年度
① 安心安全な給食の年間給食提供日数	日	目標	199	200	199	100.00%	100.00%	
		実績	199	200	199			
②		目標						
		実績						
③		目標						
		実績						
④		目標						
		実績						

4 分析・検証

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	継続実施の必要性 <small>(事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	学校給食は児童及び生徒の心身の健全な発達に資しており、継続していくべきである。	3
	市関与の必要性 <small>(市が主体で取組むべき事業か)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	役割分担の適切性 <small>(「個人」や「自治会」レベルで担える部分はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	目標の達成度 <small>(評価指標や意図をどの程度達成しているか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った	学校給食実施計画に基づき、計画どおり給食の提供が行われている。	3
	手段の有効性 <small>(現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	他団体との連携 <small>(国・他自治体、企業、団体等と連携、活用により成果向上が図れないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 <small>(業務手順、内容に見直しの余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	業務の手順等効率化については、常に取り組み改善が図られている。	3
	投入コストの適切性 <small>(投入するコストは適正化、削減の余地はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源の確保 <small>(受益者負担は適正化、国、県等の補助等はないか)</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

5 方針（分析・検証結果を元に対応方針を検討する）

評価者 給食センター所長 戸田重久

		妥当性				業務改善についての方向性	
		0点	1点	2点	3点		
有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	給食の調理及び輸送については、学校給食法に基づき、適切に行われている。調理員（臨時職員）については、コストを意識して勤務時間を、4時間、6.5時間、7時間に分け、必要最低限の人員で、業務を進めている。現体制で、安全安心でおいしい給食の提供が図られていることから、現状を維持することが望ましい。	
	いずれか1点	C	C	C	C		
	合計4点	C	C	B	B		
	合計5点	C	B	B	A		
	合計6点	C	B	A	A		
A 業務の内容は適切である							
前年評価		前々年評価					
総合評価と今後の方向性	成果	投入コスト				成果の方向性	コストの方向性（関与人件費含む）
		皆減	縮小	維持	拡大		
		向上	C	B	A		
		維持	E	D			
		縮小	F				
休廃止	G						
D 成果・費用とも維持 = 現状維持						前年度 施策評価方針	

出水市教育委員会事務事業 外部評価・二次評価シート

事業名	給食の調理及び輸送	事業コード	41003
		番号	

位 計 画 づ 上 げ の	出水市の教育	施策名（重点）	保健体育の充溢
		施策名（努力点）	食育の推進
	総合計画	基本方針	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり
		施策	学校教育の充実
		細施策	たくましさの教育
一 次 評 価	総合評価	A	業務の内容は適切である
	今後の方向性	D	成果・費用とも維持

【外部評価】出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言

○事業は適切に行われていると思う。

【二次評価】教育委員会委員による評価（方向性）・一次評価に対する意見

		投入コスト				評価の理由・附帯意見等
		皆減	縮小	維持	拡大	
成 果	向上		C	B	A	○安全安心な給食を提供するために、努力していることがよく分かった。
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
		D 成果・費用とも維持				